

二〇一三年一〇月四日

自転車を踏む筋力や老いの春
朝露を抱きてきらめく彼岸花
朝散歩秋草分けて水際へと
かくれんぼ秋夕焼けに散らばりて
酒蔵の軋む階段秋の冷え

治男
三刀
菜々
有香
なつき

二〇一三年一〇月三日

山頂に仰ぐ天守に秋高し
狛犬のしっぽに触る風萩
露座仏に一茎手向く野菊かな
曼珠沙華真上にカメラ構へけり
赤蜻蛉キヤツチボールにぶつからず
リハビリの吾を導く道おしえ
虚子塚に佇みをれば秋の声

つくし
菜々
宏虎
ぽんこ
治男
三刀
はく子

二〇一三年一〇月二日

里の子ら毬栗蹴って登校す
始発まつホームを包む虫の声
秋日入るガラス細工の小宇宙

よし子
さつき
なつき

二〇一三年一〇月一日

月光に屏風立ちせる四囲の嶺々

宏虎

雲板のしるき窪みや秋日影
秋の川奇岩巨岩に激ちけり
手の届きそうな里山秋の晴

雅流
さつき
よし子

二〇一三年九月三〇日

草紅葉路傍の石は道標
吐息めくトランペットや秋風裡
諸の茎一品となす老いの卓
同齡の訃を聞きてより愁思憑く
蕎麦の花虻の頭突きに揺れやまず
秋晴に白壁映ゆる蔵の町

宏虎
ぽんこ
三刀
あさこ
うつき
さつき

二〇一三年九月二九日

蓑虫の夕日まぶしと凹みけり
うそ寒し万の身代はり地蔵尊

つくし
はく子

二〇一三年九月二八日

豊の秋明智の里を一望す
襖絵の龍と目の会ふ愁思かな
飛火野の起伏にあそぶ秋茜
濠に沿ふ御陵の松の色変へず

よし子
うつき
満天
雅流

毎日句会みのる選・二〇一三年一〇月七日